

学び合い、笑顔あふれる学校に  
～「教えて考えさせる授業」の理念を共有し、夢へ向かう子どもを育てる教育の創造～

学力向上推進員 委員 教務主任: 武知弥生  
田淵 由起子 学力部員: 岡田幸江 下内誉幸 富永由美子 安友千絵 坂東郁代  
井上三月 古川良子 太田彩子 橋本大一郎 小川雅功

中野 勝邦



(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ さ 課 題	基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとする意欲が少しずつ育ってきた。また、それぞれの課題解決に向けて前向きに取り組んでいる。学習規律の定着(主に0分スタート、学習環境の整備)も進みつつある。 授業の内容がよく分かって捉えている児童は全体の85%いるが、基礎的・基本的な知識の確実な習得には至っていない。また、勉強が好きだと考える児童が全体の67%しかおらず、継続して学習することが難しい。	①基礎的・基本的な事項に関する定着確認テストで、平均正答率を80%以上にする。 ②児童アンケートで「国語・算数の授業の内容はよく分かる」「勉強が楽しい」と回答する割合をともに85%以上にする。			
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
	①朝の活動(漢字や言葉、計算等のドリル学習や読書等)の充実を図る。 ②TT・教科担任の指導方法(「教えて考えさせる授業」)を工夫し、児童の学力に合った個別指導を行ったり、関心・意欲の高まる教材・教具をつくったりする。	①学年毎に朝の活動計画を作成し、学期に1回見直す。 ②TT・(5・6年の教科担任)の指導方法に関して、単元毎に情報交換を行い、必要に応じて見直す。			

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ さ 課 題	予め、自分の考えを文章にまとめたり、ペアやグループで話し合ったりしておく、物事を筋道立てて考えられる。友達の前で自分の意見を発表したり思いを話したりしたいという意欲はある。 他者の考えを基に自らの考えを述べたり、自分の思いや考えを他者に伝えたりすることが難しい。	①習得した内容について、自分の言葉で説明したり質問に答えたりするとともに、理解したことを課題解決に生かしている。 ②主体的に課題解決に取り組み、自らの考えを進んで話したり書いたりすることができる。	①1時間に1回以上、新しい概念・意味を理解し、関連を図る学習を取り入れる。 ②児童アンケートで「友達の前で自分の意見を発表したり思いを話したりしている」と回答する割合を80%以上にする。		
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
	①「習得サイクル」と「探究サイクル」の二段構えで単元・授業を設計する。 ②「発表ナビ」や「話す・聞く名人レベル表」、ワークシートを効果的に用いて、考えを高めたり深めたりする学習を展開する。	①質問したり説明したりするなど、反応するシステムを学習の中に取り入れる。 ②書いたり話したりすることで、自らの考えを確かなものにさせる。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ さ 課 題	授業におけるノート指導や自主学習ノートの公開等によって、主体的に学習に取り組もうとする児童が増えつつある。 児童アンケートで「家で、自分で勉強をしている」と回答した児童が80%と、主体的に家庭学習に取り組む姿があまり見られない。	①学習したことを自分の言葉でまとめたり説明したりするとともに、理解したことを実の場で使っている。 ②目的や必要性を意識して、授業や家庭学習(特に予習)に取り組んでいる。	①毎時間、児童自身が授業の振り返りとまとめをし、全体で共有する。 ②児童アンケートで「家で、自分で勉強をしている」と回答する児童を85%以上にする。		
	具体的方策(教員の取組)	取組指標		評価	次年度における改善事項
	①振り返りの段階で学習の成果や自身の変容を自覚させられるよう、単元・授業の組み立てを工夫する。 ②「家庭学習の手引き」を活用し、家庭と連携しながら、児童の家庭学習の定着を図る。	①理解を深めるための習得学習のサイクル(受容学習→能動的表現→問題解決→討論→教訓の抽出)を意識した単元・授業展開をおこなう。 ②昨年度に引き続き、主に高学年で、学期に1回以上の自主学習・ノートランプリと年1回の実力テスト(思考力・判断力・表現力を測るもの)を実施する。			

令和元年度 学力向上ロードマップ

